

2022年（令和4年）を振り返って

令和4年12月

（福）遠淡海会理事長 水谷 博

2022年は法人創設48年を迎え、遠淡海会の今年1年を振り返ってみました。

令和3年4月にスタートした児童発達支援事業所「ふぁーろ」は2年目を迎え、和合こども園併設の利点を生かしながらインクルーシブな支援に努め、子どもたちの笑顔と元気な声が園内に届いています。

また、若宮こども園では、こども達が登り降りしながら楽しめる人工芝の築山と水遊びが楽しめる小川のせせらぎのジャブジャブ池を園庭に整備し、連日子どもたちが段ボールをお尻に敷いて元気いっぱいしゃぎながらお山を滑り降りるなど、毎日楽しく利用しています。

このように明るい話題に囲まれた反面、他方で、この1年は、災害と感染症対策に追われた1年でした。令和4年9月23日の夕方から、台風15号の影響で静岡県は記録的豪雨に見舞われました。浜松市でも夕方から夜半にかけ風雨が強まり、東区の若宮こども園では周囲が用水路で囲まれていることもあって、周りの道路や園庭が見る見るうちに冠水し、子ども園園舎の1階部分が床上まで浸水するという創設以来初めての大きな被害に襲われました。

翌日24日（土）職員全員で、1階部分の机、保育用具、建具、備品、畳等を全て園庭に搬出し、流入した泥の搬出、清掃、片付け、全館消毒を行い、27日（火）まで3日間を休園。その後、施設の床の張替えや建具の改修、畳、備品等の買い替えを行い、合わせてブルーシートと土嚢を設置し、今後の大雨災害の備えを行いました。園児や保護者の皆様にご不便をおかけする結果となりました。

次に、神久呂の園においては、本年、新型コロナウイルス感染症が発生し、8月にご利用者7名、職員10名余が罹患し、更に12月から1月にかけてご利用者50名余、職員30名余が感染する結果となり

ました。この間、施設職員全員で、レッド・グリーンゾーンの施設内区分けやマスク、フェイスシールド、感染防御着の着用、全館アルコール消毒、1日4回の全館換気、外来者の入園制限等を徹底して実施しましたが、結果的にクラスターとなり、感染を防止することができず、ご利用者やご家族様にご迷惑をおかけする結果となり、深くお詫び申し上げます。現在は一旦終息しておりますが、新型コロナウイルスの第8波は県内でもまだまだ継続しており、他施設においても感染の報告が見受けられることから、神久呂の園において本年度策定した感染症発症時の事業継続計画（BCP）に基づき、引き続き感染対策に法人全体で取り組んでいきたいと考えます。

さて、いよいよ令和5年（2023年）がスタートしますが、社会保障の喫緊の課題は、医療や介護を担う人材の確保と少子化対策です。高齢者の増加と現役世代の減少により、1人の高齢者を20～64歳の3人で支える「騎馬戦型」から、2040年には1人の高齢者を1～1.5人で支える「肩車型」への変化が進むとされています。人材確保では、高齢者の経験と能力を活かした職場環境の整備、介護業務のすそ野を広げ介護周辺業務を担う介護サポーターの育成、少子化対策としては子育てしやすい環境づくりの為に保育園に通えない子どもたち（無園児）も保育園を利用できるような仕組みづくりを法人としても検討していきたいと考えます。



若宮こども園に整備した人工芝の築山

